

松本清張記念館

◆館報◆

2012.3
第39号

世界には「どこへも行けない道」
という伝説があるそうです。



「聖獣配列」上・下
昭和61年1月 新潮社

「聖獣配列」は
昭和五十八年九月一日から
昭和六十年九月十九日まで、
「週刊新潮」に連載された。

「どこの所管でもない秘密資金」
というものがあるらしいですな。

現在入手できる本

『松本清張全集』第60巻(文藝春秋)

『聖獣配列』上・下 長篇ミステリー傑作選(文春文庫)

『聖獣配列』上・下(新潮文庫)

目次

- 国際共同研究公開シンポジウム……………2
- 松本清張研究会 第25回研究発表会……………4
- 特別企画展
「いつもカメラを携えて」……………5
- 展示品紹介……………6
- 点描 作品の舞台を訪ねて……………6
- 研究誌『松本清張研究』第十三号発刊……………7
- 友の会活動報告……………7
- トピックス……………8

作品紹介

銀座の「クラブ・シルバー」のママ・中上可南子は、議員秘書の倉田と、ある外国人の手引きで、今はアメリカ大統領となったバートンと再会する。迎賓館で一夜を過ごした可南子は、私的な写真を撮るつもりで持参した小型カメラで、偶然出くわした密約会談の様子を撮影する。

ISO400のフィルムは、日本・磯辺首相と、アメリカ・バートン大統領と、数名の側近の姿を、見事に写していた。写真をめぐり、強かに野心を燃やす可南子と、会談の黒幕との暗闘が始まる。

スイスの個人銀行に一度は大金を得た可南子だったが、「宇都宮の釣天井」を作った大工のように、密約に奔走した者たちも消された。また、可南子の運命も――。

写真一枚の持つ力と、それを無効にする驚きの手口。さらに、恐るべき結末が用意されている。

(専門学芸員 柳原 暁子)

東アジアにおける

松本清張作品の受容

一日目

■ 松本清張が読む魯迅、東アジアが読む松本清張

●平成二十四年二月十一日(祝) 十時〜十五時三十分
●松本清張記念館 地階ホール

平成二十三年度、松本清張研究奨励事業に選ばれた「東アジアにおける松本清張作品の受容」国際共同研究チームの公開シンポジウムが開催された。日本、中国、台湾、香港、韓国における、清張作品の比較文化・受容の研究等について報告があり、総合討論では活発な議論・質疑応答が行われた。

第1部

松本清張と中国

●十時〜十二時

報告 1

藤井省三

(東京大学)



▼松本清張の初期小説「父系の指」と魯迅「故郷」
——貧者、棄郷の私小説から推理小説「張込み」への展開をめぐって

松本清張記念館所蔵の清張旧蔵書から推理するに、清張は魯迅を愛読していた。「新潮」一九五五年九月号に発表された清張の私小説風作品「父系の指」は、魯迅の短編「故郷」の構造を逆転したものであり、貧者である閩土の息子水生の視点に立って、「故郷」の語り手の私およびその甥・宏児に相当する富者を

批判している。

苦悩は富者の特権ではなく、貧者は論理と情念を喪失しているわけでもない、とりわけ貧者が犯罪を犯す時、その苦悩はいかなるものか——このようなアンチ魯迅「反「故郷」」のテーマは「小説新潮」一九五五年十二月号に発表された「張込み」へと結実している。

報告 2

王成

(中国 清華大学)



▼清張ミステリーと中国
——映像メディアの力

中国における松本清張ミステリーの受容は、文学作品と映画・ドラマなどの映像メディアの連動によって、幅広い読者層を成している。多くの読者は映画やドラマを通して、清張ミステリーの魅力を知り清張文学作



品を愛読するようになった。

『砂の器』は一九七九年中国で吹き替えをされて、翌年の公開で大ヒットし、中国人の一代における共通の文化記憶となっている。『霧の旗』は一九八〇年に吹き替えをされたが、公開されずに、内部上映された。中国における清張ミステリーの受容は、一般読者だけでなく作家たちにまで及び、文学界にも大きな影響を与えたとと言えるだろう。

報告 3

于桂玲

(中国 黒竜江大学)



▼『種族同盟』から『黒の奔流』への逆転
——清張文学の女性像をめぐって

清張の短編小説『種族同盟』は、一九七二年の映画化の際『黒の奔流』と改題され、犯罪者の性別が男性から女性に変更された。以来、二〇〇九年テレビドラマ版まで援用された。この変更は清張作品の女性像の延長か、反するものなのか？ 他の作品を例に女性犯罪者を見てみると、『霧の旗』『点と線』『黒革の手帖』は復讐する女性の姿がある。また『ゼロの焦点』『地方紙を買う女』などは、過去に苦しめられる女性だ。同様に『砂の器』『顔』『内海の輪』など男性のものもある。これらは映像化される際に時代差を埋めるための変更が行われている。

原作では、時代の差から清張の描く女性像や結末に女性読者は不満を持つのではないかと。しかし深いところで女性への同情以上に敬意を示しているように読める。映像化における変更の多くは、原作の女性像から逸しているし、現代人を反映しているのかもしれない。

松本清張と香港・台湾・韓国

● 十三時三十分～十五時三十分

報告 4

関詩珮

Uganda KWAN
(シンガポール南洋理工大卒)



松本清張小説の一九八〇年代香港における翻訳紹介ブーム

松本清張の作品はかつて香港で大いに歓迎されていた。現在の多くの探偵小説・推理小説・SF小説の著名作家は「松本清張が推理小説の世界に連れて行ってくれた」と言っている。香港では一九八〇年代より松本清張小説の翻訳と模倣のブームが起った。一部の翻訳者は、清張小説翻訳を、彼の作風を学

ぶための手段と見なしており、翻訳から模倣へと移行した。

松本清張を訪問したことのある沈西城はその好例であり、映画『甜蜜蜜』の脚本を手がけた岸西も愛読者である。今日の香港における、著名作家や文化産業のアイデアマンが、清張作品に影響をうけていることは、彼らの発言から明らかであり、今後更に調査を続けていく必要を感じている。

報告 5

陳國偉

(台湾・中興大卒)



歪んだ複写

——一九八〇年代台湾における松本清張の翻訳と受容

一九八〇年代「松本清張選集」の創刊や、雑誌「推理」での清張短編小説の掲載により、台湾は本格的に松本清張の時代を迎えた。当時、台湾文学界で興隆してきた「郷土文学」精神も後押しとなり、松本清張は八〇年代台湾のインテリと推理小説読者に重視される作家であり、推理小説の創作に挑む人たちの啓蒙者にもなった。しかし旧国民党独裁体制下の台湾では、社会派を誕生させるような民主社会の土壌はなく、極度に制限された状況下での理解のもと、その小説テーマと人物像を歪めながら複写したといえるだろう。

島崎博(傳博。台湾出身。一九七五年に日本で雑誌「幻影城」を創刊した)による林佛児(台湾推理小説界の代表的な人物)小説への批判のように、ストーリー展開やアイデアだけを模倣し、社会性や犯行動機に乏しい台湾の推理小説の実態は否めない。

報告 6

南富鎮

(静岡大卒)



松本清張と丸山眞男の朝鮮

全く接点がなく、むしろ多くの側面で対極にある松本清張と丸山眞男だが、唯一の共通点がある。朝鮮での二等兵としての兵隊経験だ。二人が朝鮮に渡ったのは奇しくも同じ一九四四年七月で、同じ第二〇師団だった。

朝鮮という特殊な場所での、共通した二等兵経験によって、二人の対極的な認識が一層鮮明にされた。兵隊経験は松本清張文学と社会認識の根幹をなしており、丸山眞男の政治思想においてはそれがいわゆる「執拗低音」をなしている。朝鮮での兵隊経験によって二人の文学と政治思想の基本的な枠が決定されたと言つてよい。さらにそれは、二人の大きな分岐点でもあったといえる。



二日目

東アジアと松本清張 作品の映画化、ドラマ化

- 平成二十四年二月十二日(日)
- パネルディスカッション
- 十三時三十分～十六時三十分
- 王成 / 于桂玲 / 関詩珮 / 陳國偉 / 南富鎮
- 司会 藤井省三
- 松本清張記念館 地階 会議室

松本清張の初期短編小説「張込み」を題材に、原作・映画・テレビドラマの違いや影響について、様々な意見が交わされた。

- 司会の藤井省三氏は、映画で童謡「ふるさと」が二度登場すること、機関車のシーンで各駅名が繰り返し示されることから「故郷」を暗示していることを指摘した上で、パネリストへ
 - ① 映画、ドラマの改変(脚色)について
 - ② 他国の研究者から見てどう思ったか
 - ③ (日本以外の)自国で「張込み」を映像化するとしたらどうか
- の三点について質問した。
- 各国の研究者からは
- 「昭和三十年代の日本の日常が描かれている」
- 「汗や雨をはじめ、水が多用されている。欲望の象徴ではないか」
- 「小説と映画は同時代だが、ドラマは現代。動機や人間像の変化は日本の現代社会を反映している」
- などの意見が交わされた。

松本清張研究会 第25回 研究発表会

平成23年12月3日(土)午後2時 慶應義塾大学三田キャンパス

もし私がもう少し早く生れ、あるいはもう少し早く菊池寛と機縁を持つことがあったならば、私は菊池先生の門下生になっていたらと思う。門下生でも駿足の一人になり得たらと思う。門下生でもないのは、菊池先生の境遇と私の境遇とよく似ている。感情に共通するところが多いからであります。(講演「菊池寛の文学」)

境涯の類似 貧困 菊池寛の場合

菊池寛(明治二十一(一八八八)年十二月、香川県高松生まれ。昭和二十三(一九四八)年没、享年六十歳)の家柄は、先祖代々、高松藩の藩儒の家系です。江戸時代の菊池五山という立派な儒学者の血が流れているというプライドを持っていました。しかし、御維新で父親は職を変えざるをえなくなります。小学校の小遣いさんのような仕事をしています。菊池寛は六人兄弟の四男坊でした。「半自叙伝」という自伝の中に、教科書が買えなくて、友達のを借りて墨で書き写した話などが書かれています。修学旅行にも行けなかった。後年、文壇の『大御所』と呼ばれる菊池寛は、袂にくしゃくしゃになった紙幣を入れていて、若くてまだ目が出ない作家達が来ると、「君、困ってないか?」と言って小遣いを渡していたというエピソードもあります。芥川賞も直木賞も、うずもれた若い人を

引き上げてやるうという意図の下に作られたわけです。どれも、自分が苦勞した貧困という問題とつながっていると私は思います。

菊池は高松中学校を出ますが、お金が続かず上には進めません。そこで給費生として、東京高等師範学校にいやいや入ります。その後、明治大学や早稲田大学に行き遠回りしながら、第一高等学校に入ります。同期には、芥川龍之介、久米正雄などの、後に文名をはせる秀才たちがおります。卒業間際に『マント事件』が起きます。佐野文夫という友人の罪を着て退学になるという事件です。そして、京都大学の英文科に入りますが、このとき援助してくれたのが成瀬正一という友人です。父親は十五銀行の総支配人で、裕福な家庭です。卒業後、『時事新報』の記者になりますが、給料は月三十円でした。当時の公務員の初任給は、七十円です。それから、写真だけの見合いで実利的に条件の一番いい、奥村包子という同郷人と結婚します。

境涯の類似 貧困 松本清張の場合

松本清張(明治四十二(一九〇九)年十二月、福岡県の小倉、現在の北九州市小倉北区生まれ。平成四(一九九二)年没、享年八十二歳)さんの父親は峯太郎と言います。餅屋さんや塩鮭売りなどいろいろな仕事をするが、成功しない。母親はタニさん、非常に愛情の強い人ですが、文字が読めない。清張さんは一人っ子として溺愛されます。高等小学校卒業後、学資がなく、川北電気企業の給仕になり、その後、印刷会社の石版工の見習いになります。昭和三年で、月給が十円です。こ

頃の大工さんの一日の手間賃が三円だそうです。松本清張さんも経済的になかなか自立できなかったわけですね。

昭和十二年に、小倉の朝日新聞社の九州支社に広告版下工として入ります。新聞社では、学歴による差別を嫌というほど体験しています。収入はだいぶ安定したようです。昭和二十一年に終戦、朝鮮から復員してきて朝日新聞社に復職します。しかし、八人家族を養うのは難しかったので、帯売りなどのアルバイトをして口を糊してあります。昭和二十五年、『週刊朝日』で懸賞小説の募集があつて「西郷札」を書きます。三等入選、これが翌年の直木賞候補にもなる。少し文名が上がってくるわけです。昭和二十八年には、「或る『小倉日記』伝」で芥川賞を取り上京しますが、家族八人を東京によべたのは翌年のことでした。社を辞め、作家として自立するにはまだ勇気がいったようです。

講演で清張さんは、菊池寛と自分の境涯が似ているのでシンパシーを感じると言っているわけですが、貧困に焦点を当てて見ると、確かにその通りという気がします。そこに両者の接点を見ることが出来ます。清張さんは一見「立志伝」のような菊池の「半自叙伝」を読んで、ある種の「希望」を持ったような気もします。

境涯の相違と二人の文学

清張さんは上級学校に進めなかったから、「私には友人というものがいない」。非常に寂しいと仰っている。

対して、菊池のほうは芥川、久米という共に研鑽する仲間がいる。経済的な援助をしてくれた成瀬正一、成瀬家との繋がりもあつた。友人には非常に恵まれていました。また菊池には一種の党派性、派閥の問題があります。プロレタリア

文学との対抗の中で、後輩、先輩、同期の仲間達をうまく自分の傘下に入れ、文藝春秋という媒体を使いながら組織化していく。さらに文壇のオルガナイザーとして非常に大きな位置を占めていきますが、そのために戦時中は、軍の提灯持ちとして使われます。この辺は、松本清張さんとの対照的な生き方かなと思います。

それから、峰子さんという成瀬正一のお母さんがいます。彼女は菊池に全幅の信頼を寄せ、我が子同様に丸ごと面倒を見てくれました。「大島の出来の話」の中で、いかに物心両面で救われたかと縷々綴られています。合理主義者で非常に現実主義者のように見える菊池も、最終的には人間を善なるものと捉える眼を持っていたと私は考えます。この菊池の性善説は、峰子さんの存在、その善性から大きな影響を受けたと思います。「屋上の狂人」や「父帰る」などの作品には、最後に「救い」がある。菊池の文学的教養の基本は(戯曲)ですが、菊池作品の大きな基盤はこの「救い」だと思います。

対して、清張さんはどうか。(救い)が全然ないことはないが、冷ややかに事件なり人間なりを見つめる。そして、救い上げるよりは突き放して、その(真理)に寄りそおうとする。何故そんな悪をなすのか、と人間の(真理)に身を寄せていく。菊池と対比するとそれは、一種の諦念に見えるかもしれません。

菊池寛との不思議な縁

不思議な縁ですが、清張さんは「或る『小倉日記』伝」で一旦は直木賞候補になります。しかし、最終的に受賞したのは芥川賞。これは清張文学がいずれの方にも足を踏まえる性質を持つていることを語っています。つまり、大衆文学的であると同時に純文学的な性質を持つていることが、図らずも菊池寛の創設した二つの賞において証明されているのです。

研究発表 『松本清張と中間小説の時代』
発表者 高橋孝次(千葉大学非常勤講師)



講師 片山 宏行

○青山学院大学教授
日本近代文学専攻



携えたいカメラ

企画展

展

松本清張が愛した人
カメラとその時代

松本清張没後
20年記念
特別企画展



開催期間延長 5月6日(日)まで

松本清張記念館地階 企画展示室

新資料

●新発見! 清張が使った「ライカ」?!

清張がセルフタイマーで撮影した昭和18年頃の写真がある。この時使用した「ライカ」と思われるものが、この度見つかった。

持ち主は、清張が作家になる以前から家族ぐるみで交際があった小野昭治氏。清張は小野氏の叔父・五郎さんと友人で、五郎さんは昭和15年に戦死した。その二日後に小野氏が生まれたことから、五郎さんの「生まれ変わりだ」と言って清張に大変かわいがられた。昭和8、9年頃、五郎さんは、兄である小野氏のお父さんが乗っていたサイドカー付きのハーレー・ダビッドソンに清張を乗せて出かけ、溝に落ちて新調したばかりの清張の浴衣が破れたというエピソードも伝わっている。清張は、「五郎さんが一緒について来て、おふくろに謝ってくれた」と話したという。また、小野氏のお母さんとも親しく、清張は上京後も姉のように慕っていたという。

「ライカ」は、もとは小野氏のお父さんのものだった。中国大陸へ出征した際、前述のハーレーを軍の物として持って行き、サイドカーに連隊長・橋本欣五郎(『昭和史発掘』『桜会』の野望)にも登場する将校)を乗せて走ったが、昭和12年の除隊の時に売り払い、香港で「ライカ」を購入して帰国した。

小野家では日常的に使用されていたこのカメラを、清張が遠出の際に借りたということは、十分ありうると小野氏は言う。昭和18年頃入隊前の清張が自分の写真を撮ったカメラが、この「ライカ」である可能性は高いだろう。



小野 昭治 氏

松本清張没後20年記念・特別企画展関連講演会

「ニコンF3 松本清張スペシャル作成の過程」

講師 (株)ニコン ニコンフェロー・映像カンパニー・後藤研究室長 後藤 哲朗 氏

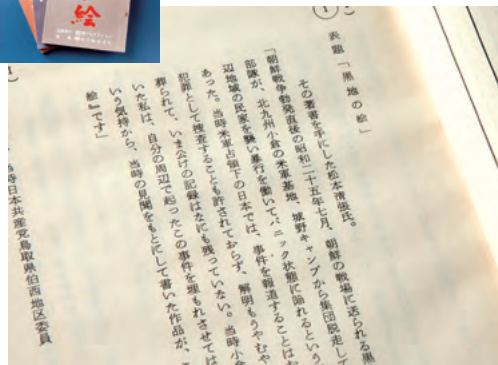
○平成24年3月24日(土) 14:00~15:00 ○松本清張記念館 地階ホール

清張旧蔵のカメラ、ニコンF3について、改造を手がけた後藤哲朗氏が、「清張スペシャル」の秘密を語りました。

後藤氏は、ニコンのフラッグシップ機開発に長年携わり、NASAが実際に宇宙で使用したカメラの開発なども手がけました。それらの貴重な経験を、興味深くお話いただきました。



『黒地の絵』の三つのシナリオ



「黒地の絵」は昭和三十三年三月四月「新潮」に連載された。朝鮮戦争が勃発した昭和二十五年の七月、松本清張の生活していた小倉で実際に起きた、米軍・黒人兵の集団脱走暴行事件を題材にした小説である。

この小説の映画化について清張が言及した最初は、管見のかぎり「まずオリジナルを尊重すること」「キネマ旬報」昭和四十年十一月上旬号」というエッセイである。(中略)このくらいの題材を大胆に映画にする気にならなければ、今や映画は、自分たちの分野に観客を引きもどすことは、難しいのではなからうか。

作品発表から八年、「黒い画集 あるいはラリーマンの証言」などの名作を含め、すでに二十作品が映画化されていたが、日本映画界への提言ともとれる文面からは「黒地の絵」への特別な思いが伝わってくる。ずっとその思いは消えることなく、十年後、黒澤明監督に題材としてこの小説のことを話した。黒澤監督はその場で「へたちまち乗り気にならなかつた。しかし、二へなんの音沙汰も」なかつた。しかし、二

時でも大監督が映画化の意欲を起しただらいい(こと)に、清張は映画化実現の可能性を見た。それが、昭和五十二年十月の「霧プロダクション」創立へと繋がるのである。

「霧プロ」では、清張自身がベストスリーに選ぶ映画「張込み」、「砂の器」を作った野村芳太郎監督と手を組む。野村監督は昭和五十四年六月に、黒人脚本家、ブッカー・ブラッドショウと日本側の古田求を伴い、シナリオハンティングのため小倉の地を訪れている。結局、「霧プロ」は解散し映画化は流産してしまいが、それまでに三本の脚本が書かれた。第一稿は前述の日本脚本家による共作のシナリオである。第二稿と第三稿は「鬼畜」などの脚本を手がけた井手雅人氏が、昭和五十七年八月と五十九年三月に脱稿したものである。記念館では現在、これら三冊をすべて展示している。

最後の第三稿では、冒頭「その著書を手にした松本清張氏。」(上・写真とある。清張自身が「黒地の絵」を書いた理由を語る台詞に続けて、十九人の関係者目撃者の証言が並ぶ。ドキュメンタリーへの意識が伺われる。《シーン152》「留吉が、大型の骨膜刀を振りあげ、うつと気合をこめて振りおろす。跨がった足の下に、黒い肌の胴体が転がっている。その胸の翼をひろげた鴛鴦が、切り裂かれている。ラストの《シーン153》は「キャンプ外の排水路」(へとす黒い水)が排水管から溝に流れ出ている。この画に祇園太鼓の音がかさなる。もしこれが映画になったら、衝撃的な映像に我々は肝をつぶしたかもしれない。だが、四半世紀のあいだ待ちに待った清張が親たら、はたしてどのような感慨を持ったのだろうか。

- ① 霧プロ始末記「昭和五十九年十月十六日」週刊朝日。
- ② 毎日新聞(西宮版)昭和五十四年六月五日。
- ③ 井手雅人「つづての知」昭和六十年五月「シナリオ」。

(学芸担当 中川里志)



「天城越え」②

作品の舞台を訪ねて

大正十五(一九二六)年六月二十八日、湯ヶ島巡査駐在所の報告によつて、山田警部補及び田島刑事が現場調査及び捜査のために出張した。「現場は湯ヶ島から約三里ほど離れた山中」で、「凶行の場所と考えられる白橋付近にある氷倉(白橋より約二十間ほど離れた地点の中に、裸足ではいっただらしく、オガ屑の上に新しい足跡がついているのを発見した。)」その足跡は、僅か九文半ぐらいのものであつた「九文半といえは婦人の足である。」

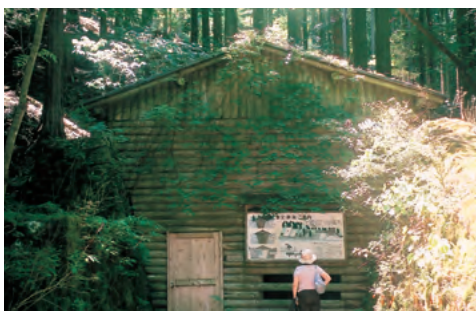
土工ふうの四十五・六歳の男が六月二十八日の午後六時ごろ、湯ヶ島新田を天城山中に向つて行つたという目撃者が現われた。「さらに、この男と時を前後して、銘仙の派手な縞柄を着て、裸足のまま草履を帯に挟んだ、二十四・五の女も、同様に天城山へ登り、さきの男と途中で何事か談話を交換している所を目撃したという者も出てきた」この女が、白橋付近で土工ふうの男と争つたあげく男を殺害し、その氷倉で一夜を明かしたうえ、早朝人目を避けて峠を越したのではないのか。」

左は、この跡地に再建された氷室(氷倉)を写したものである。

説明板によると、大正初期から昭和初期にかけて、冬の天城山で人工的に天然水を製造し、「氷室」に夏の需要期まで貯蔵しておく工法が行われていた。深さ約50センチメートルの人工池に水をはって板で基盤割りに区切り、水をつくる。できた氷は、渡り廊下状のすべり板の上を手押しされて、氷室のひきぬか(木のひきくず)の山の中へと沈められて、夏まで保存された。

今回は、「天城トンネル」を検証する。

(西本 衛)



氷室



氷室(氷蔵)ご案内

研究誌『松本清張研究』第十三号発刊



今回の特集テーマは「清張作品の映像探索」です。現在も映画・ドラマで広く愛され続けている清張作品。論文のほか、座談会・エッセイ・シナリオなど、〈映画〉〈映像〉をキーワードに、その魅力、現場からみた清張の横顔、そしてこれからの可能性などを、多彩に多面的にご紹介します。

特集

清張作品の映像探索

清張映画の現場

山田洋次・川本三郎

対談

松本清張作品の映画化

『ゼロの焦点』の同時代性と歴史Ⅱ物語性

佐藤忠男 仲正昌樹

『黒地の絵』にみるメディアと占領 — 小説から撮影台本へ

十重田裕一

清張小説のなかの映画と映画館

綾目広治

『ニュードキュメンタリードラマ昭和 松本清張事件にせまる』

外崎宏司

矩形の荒野に描かれた天才画 — 清張原作テレビドラマ史論

樋口尚文

対談

日本電影是我的憧憬

王成・劉文兵

——海を渡った『砂の器』

「渡された場面」のシナリオに就て

新藤兼人

シナリオ「渡された場面」

新藤兼人

エッセイ

松本清張賞のこと

夢枕 獏

松本清張先生原作の映画に出演して

岩下志麻

記念館研究ノート

デュヴィヴィエの影 — 青年清張が観た映画

中川里志

北九州の映画館の変遷

友の会 活動報告

● 生誕祭

12月12日(月) 参加者44名
記念館 企画展示室

2年ぶりに、松本清張さんの102回目の誕生日を友の会会員でお祝いする「生誕祭」を開催しました。

会員からの要望を受けて、初めて藤井館長を囲んだ「茶話会(意見交換会)」形式で行いました。館長のお話のほか会員同士の交流もあり、ケーキやコーヒーを頂きながら終始明るく賑やかな雰囲気のひとつでした。



● 清張サロン

清張サロンは毎回テーマを設定し、講師を招いてのお話や参加者との意見交換・交流を目的に開催しています。12月から2月にかけて3回開催され、いずれも会員の皆様に、より深く清張や清張作品を楽しんで頂くことができ、充実したサロンとなりました。

第3回 12月9日(金) 14:00~15:45 参加者63名
記念館 企画展示室

- 特別講演会「ゼロの焦点」
- 講師 久保田裕子氏(福岡教育大学教授)

第4回 1月27日(金) 14:00~16:00 参加者24名
記念館 地階会議室

- テーマ「私の清張 — 雑学アラカルト」
- 講師 末並公俊氏(友の会 幹事)

第5回 2月24日(金) 14:00~16:00 参加者21名
記念館 地階会議室

- テーマ 特別企画展「清張が愛したカメラとその時代」
- 講師 柳原暁子氏(松本清張記念館 専門学芸員)

● 友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集 ●

松本清張記念館友の会は8月1日~翌年7月31日までを1年度として、文学散歩や清張サロン、講演会、生誕祭、友の会だよりの発行、記念館に関する情報提供など多彩な事業を展開しています。

年会費は3,000円です。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

友の会入会のお申し込みは… TEL. 093-582-2761 松本清張記念館友の会事務局まで

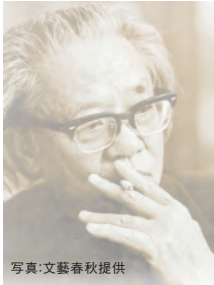
平成24年度
中学生・高校生読書感想文
コンクール

写真:文藝春秋提供

清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親んで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたいという願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからを担う若者たちに、探求の心・松本清張の精神を伝えていくことができれば幸いです。

■応募対象 全国の中学生・高校生

■課題図書 中学生・高校生ともに下記から1作品

「砂の器」(「砂の器」上・下巻 新潮文庫)

「或る『小倉日記』伝」

(「或る『小倉日記』伝」新潮文庫、『西郷礼』光文社文庫、『松本清張傑作短篇コレクション』(上)文春文庫)

「高校殺人事件」(「高校殺人事件」光文社文庫)

■応募方法

- 中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。
- 手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし、全体の字数が分かるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。
- 原稿は自作で未発表のものに限ります。なお、応募原稿はお返しいたしませんので、必要な人はコピーをおとりください。

■応募締切 平成24年10月31日(水) ※当日消印有効

■応募先 〒803-0813 福岡県北九州市小倉北区内2番3号
松本清張記念館 感想文コンクール係
※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

■選考 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■発表

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、12月下旬頃、本人と学校に通知し表彰式を行います。

なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表します。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■賞品 (受賞人数等、変更の場合もあります。)

○最優秀賞(1人)
《モンブラン》万年筆「マイスターシュテックNo.149」

○優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人) 文具など(未定)

○佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人)

記念館グッズと図書カード

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は「特別賞」として「館報」掲載を予定しています。

●主催 北九州市教育委員会 ●主管 北九州市立松本清張記念館

●協力 モンブランジャパン



イラスト:山藤 章二

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区内2番3号
TEL 093 (582) 2761
FAX 093 (562) 2303
http://www.kid.ne.jp/seicho
制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00 (入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉駅からは100円バスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車: 北九州市立中央図書館より徒歩5分

第15回 松本清張研究奨励事業募集

募集要項

- 対象 ① 松本清張の作品や人物を研究する活動
② 松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究等)
※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限ります。個人又は団体も可。
- 内容 入選者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。
- 応募方法 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的に分かる企画書、予算書、参考資料(様式は自由、ただし日本語)を、平成25年3月31日までに応募してください。

※詳しくは記念館までお問い合わせください。

2011年度・ドラマ化された清張作品

2011.9.10(土)・11(日)	「砂の器」	テレビ朝日
2011.11.2(水)	「張込み」	テレビ東京
2011.11.9(水)	「鉢植えを買う女」	テレビ東京
2011.11.16(水)	「聞かなかった場所」	テレビ東京

ミュージアムグッズ新商品のお知らせ

ポストカード

■松本清張 肖像写真 1枚 80円

■いつもカメラを携えて
—清張が撮った世界
8枚入り 600円

■松本清張 書と画
7枚入り 600円

※通信販売はしていません。

●編集後記●

清張没後20年を記念した事業の第1弾、特別企画展「いつもカメラを携えて」が好評です。清張とカメラの取り合わせを意外に感じる方もおられて、興味深く観覧されています。5月6日(日)までの開催となりましたので、ぜひ記念館にお越しください。(西本 衛)

